

日本人会活動報告



クリスマス会
山内 淑子

日本からデンマークに引
ち、初めて日本人会のイベ
少し緊張して会場に到着すると、
と明るい会話で迎え入れて下さり、安心す
始まりの挨拶や大使のお言葉などがあり、毎回好評というロウソクの飾り作りが始まりました。真ん中のテー
ブルに様々な飾り(松ぼっくり、ロウソク、リボンなど)が置いてあり、好きな物を自由にとってきて、紙皿に置
いてある粘土の土台に飾っていくという形でした。

ロウソクを中心に飾り付けをしていたのですが、全体のバランスを考えて作るのが難しく、気が付いたら熱中
していました。近くの席の方々の作品を見ると、同じ材料でも全く違った雰囲気になっており、それを拝見さ
せて頂くのも楽しい時間でした。

また、デンマークのクリスマスで定番のグリュックワインやエーブルスキーバーを頂くことが出来ました。特に
エーブルスキーバーは、クリスマス会で食べて以来、すっかり大好物になってしまい、しばらく自宅でも楽し
みました。

子供たちはサンタクロースから素敵なプレゼントを貰ったり、クリスマスソングを歌ったり、大人も子供も、とて
も盛り上がっていました。

会場の後方ではバザーが開かれており、本や文房具、雑貨や調味料など、様々な物が置かれ、合間に何
度か見に行き、色々購入出来ました。

その後、ロウソク飾りの表彰やくじ引きがあり、本当に盛り沢山の内容でした。

今回、初めて日本人会のイベントに参加させて頂いて、初めてお会いした方々にご挨拶したり、情報交換を
したり、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

日本に住んでいる頃、幅広い年代の方々と大勢で何かを作ったり、食べたり、歌を歌ったり、歓談するとい
った機会は、大人になってから、あまり無かったように思います。しかし、デンマークに住み、こうしたイベント
を体験して、大勢で一緒に楽しい時間を共有出来るって素敵だな、楽しいな、と改めて思いました。

このような素敵な機会を与えて下さり、企画運営、当日の設営などをして下さった皆様に、この場をお借りし
て心より感謝致します。ありがとうございました。

また、次回のクリスマス会やその他のイベントにも、是非参加させて頂きたいと思います。

っ越してきて約4ヶ月が経
ントに参加させて頂きました。
会長や受付の皆様が素敵な笑顔
ることが出来ました。

クリスマス会の感想

記: Jerome Wang (9月から在デンマーク)

私は昨年(2017年)の11月のクリスマス会にヘルパーとして参加しました。

ヘルパー達は90分前に集まって、一緒に部屋の装飾をしました。ヘルパー達は約15人です。皆は一生懸命働いて
いたので、最高のクリスマスイベントにすることができました。

このイベントには約60人参加しました。クリスマス会するとき、人々は遊んで、歌って、子供達は笑って、とても嬉しそ
うでした。また、将来のイベントのための資金を調達するために中古品を販売するバザーも持ちました。

イベントの最後はサンタクロースが出ました。サンタは子ども達にプレゼントを与えました。子ども達は喜んでそのプ
レゼントを受け、素晴らしい時間を過ごしました。私は若い時、こういった経験がないですから、見たとき、子ども達が
超うらやましくなりました。実はヨーロッパでクリスマスを祝うのは初めてでした。この経験は最高です。



日本人会活動報告



Kære
Dagbog

12/01/2014

I dag var vi (Mig, Therese, Frederik og Mor) til en Japansk Fest. Og jeg hjalp til med at sætte ting op



først. I festen skulle man slå med hammer på klistret ris. Og man kunne sætte ansigtet på et hoved. Vi købte også lodsedler. Jeg og Therese købte 5 sedler. Mor købte 6 og gav os dem.

Til lodtrækningen sagde de måske "Rød 2". Og hvis man havde en seddel, hvor der står 2 og den var rød, så skulle du gå op og give sedlen. Så fik du en gave. Vi vandt 2 gaver. Det var en Harry Potter dvd og en svamp. Vi vandt med dem, vi selv havde købt. Men mors sedler har nok givet os lykke.

Kh. Victor Winsløw

Sådan skriver min lillebror Victor i sin dagbog om den Japanske Mochi-fest, som traditionen tro blev afholdt søndag d. 12/1 i Hel-

lerup kirkes menighedslokaler. For mit eget vedkommende startede dagen først rigtigt, da jeg sammen med Ditlev (bestyrelsesmedlem i Nihonjinkai) skulle transportere en massiv stenskål nogle hundrede meter over en parkeringsplads og ind i menighedslokalerne. Her skulle den være centrum for "mochitsuki" ceremonien, hvilket for mig var hovedpunktet i dagens fest.

Jeg husker selv som barn, at have "slået til klistret ris med en hammer", som Victor skriver. Det var dengang, jeg gik i børnehaven

i Japan for mange, mange år siden. Selvom minderne er tågede, kan jeg stadig huske følelsen af at stå i køen og vente på, at det blev ens tur til at banke ris. Jeg husker tydeligt, at da jeg så endelig fik lov til at få hammeren i hånden, sprang en børnehavepædagog straks til og hjalp mig med at løfte den tunge hammer. Noget utilfreds fik jeg med børnehavepædagogens hjælp lov til at dunke lidt på mochien, indtil det blev tur til næste barn.

I virkeligheden er min personlige erindring om mochitsuki-festen for over 20 år siden mindre vigtig. Det faktum at jeg den dag i dag kan huske ceremonien forholdsvis tydeligt er dog interessant. Set i bakspejlet må begivenheden have gjort virkeligt stort indtryk på mig dengang. Så stort et indtryk, at jeg under mochitsuki-festen d. 12/1 igen kom tilbage til børnehavetiden i Japan og igen stod i køen foran stenskålen parat til at give det klistrede ris en omgang klø.

Frederik Winsløw

親愛なる 日記帳へ 2014年1月12日 今日、僕、テレーズ、フレデリックとお母さんは日本のパーティーに行きました。そして僕はまず物を並べるお手伝いをしました。パーティーでは、ベトベトしたコメをハンマーで叩かなければなりませんでした。それから、(*)頭に顔を付けることもできました。くじも買いました。僕とテレーズは5つ買いました。お母さんは6つ買ってそれを僕たちにくれました。くじ引きでは、たとえば「赤の2」と言われ、もっているくじに「2」とのっけていて、それが赤だったら、持って行ってくじを渡すとプレゼントがもらえました。僕たちは2つプレゼントが当たりました。ハリーポッターのDVDとスポンジでした。自分たちで買ったくじで当たりました。でも、お母さんのくじは僕たちに運をくれていました。

ヴィクター ヴィンスルーより

(*)福笑いのこと

こんな風に弟のヴィクターが日記帳に書いているのは、1月12日日曜日ヘレロップ教会集会場にて、伝統に則り催された「日本のもちパーティー」についてです。私自身に関すれば、その一日が確かに始まったのは、日本人会理事のデイトレヴさんと一緒にドッシリと重い石臼を数百メートル駐車場から集会所の中に運んでからでした。ここが、私にとってその日のパーティーの主題「餅つき」儀式的中心となるべき場所でした。

私も子どもの時、ヴィクターが書いているように「ベトベトしたコメをハンマーで叩いた」ことを覚えています。それはもうずっと何年も前、日本で幼稚園に通っていた時でした。思い出には霧がかかっているけれど、列に並んで、コメを打つ自分の順番が回ってくるのを待つ気持ちを今でも覚えています。やっとのことでハンマーを手にすることが許されたのに、幼稚園の先生がすぐに飛んできて重いハンマーを持ち上げるのを手伝ってくれたのをはっきりと覚えています。少し不満ながら、先生の手を借り、次の子の順が来るまで、餅の上を少し突くことが許されました。

実は20年以上前の私の個人的な餅つき会の記憶は特に重要ではありません。しかし面白いのは、今日この日、儀式のことを比較的鮮明に私が思い出すことができるという事実です。振り返ってみると、あの出来事は当時私に本当に大きい印象を与えたようです。それがどれほど大きい印象かという、私は、1月12日餅つき会の間、再び日本の幼稚園時代に戻っていました、そしてベトベトコメに一発かましてやろうと、石臼の前でまた列に並んでいたのです。

フレデリック ヴィンスルー
(翻訳ヴィンスルー美智子)

